

● 地域提案型

平成22年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	タイ
2. 事業名	タイ視覚障害児の理数科基礎教育に関する教員の資質向上支援
3. 事業の背景と必要性	1990年にタイのジヨムティエンで「万人のための教育（EFA）世界会議」が開催され、採択されたEFA宣言を受け、タイでは義務教育の延長、12年間の基礎教育の無償化など、基礎教育の重要性を認識した施策が実施され、現在では初等教育の就学率は90%を超えている。しかしながら、近代化、工業化により、社会構造は急速に知識社会に変化しており、理数科教育は重要になっているにもかかわらず、社会的弱者、中でも視覚障害児童への十分な理数科教育は行われておらず、疎外された人々への教育の質の向上が求められている。 他方、福岡市の外郭団体である、財団法人九州先端科学技術研究所（ISIT）は、科学技術教育、視覚障害者支援の研究実績を有しており、2009年からは視覚障害児童のための科学理解増進事業である「科学ヘジャンプ事業」を日本全国で実施し、視覚障害児の理数科教育ノウハウの蓄積がある。このノウハウを活かしアジア各国の課題解決に貢献するために、本提案事業が企画されるに至った。
4. プロジェクト目標	視覚障害児の理数科基礎教育に関する教員の資質が向上する
5. 対象地域	タイ全国
6. 受益者層 (人数規模)	タイ視覚障害児の理数科教育にかかわる教員
7. 活動及び期待される成果	<成果> 1) タイで視覚障害児の理数科教育を担うリーダーとなる人材が育成される 2) タイの教員が視覚障害児の理数科教育に関する基本ノウハウを取得する 3) タイ向けにカスタマイズされた視覚障害指導法パッケージを完成する <活動> 視覚障害教育に携わるタイの教員に対して日本の専門家を派遣し、指導法、教育技術に関するワークショップを行う。その中で優秀な人材を選抜して日本に受け入れ、授業参観、教材研究、研究授業を通して、リーダーを育成する。リーダーはタイで行うワークショップで日本の専門家と一緒に講師を務める。更にワークショップを受講した教員が自分の学校に戻って、伝達講習を行うことで、全ての教員にワークショップのノウハウを行き渡らせる。
8. 実施期間	2011年7月～2014年2月
9. 事業費概算額	29,995千円
10. 事業の実施体制	タイ全国各地に視覚障害者を支援する施設を有しており（9校の盲学校を含む）、国内外のNGOと協力体制を構築している、キリスト教視覚障害者財団（CFBT）をカウンターパート機関とすると共に、タイ盲人協会（TAB）、タイ国家電子・コンピュータ技術センター（NECTEC）、タイ国教育省科学技術教育振興研究所（IPST）等の関係機関の協力を得た現地実施体制とする。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名 (提案自治体)	実施団体：財団法人九州先端科学技術研究所（ISIT） 提案団体：福岡市
2. 対象国との関係、協力実績	タイ盲人協会の要請を受け、過去にISITが現地で計3回のワークショップを開催。数学や安全な理科実験の指導法、教員の利用法などについて技術協力を実施。